

土壌改良資材散布による土づくり

□ 越前たけふ米の品質・食味向上は土づくりから □

越前たけふ米の安定的生産を図るため
JA越前たけふでは、土壌改良資材としてケイカル散布による土づくりを推奨しています。

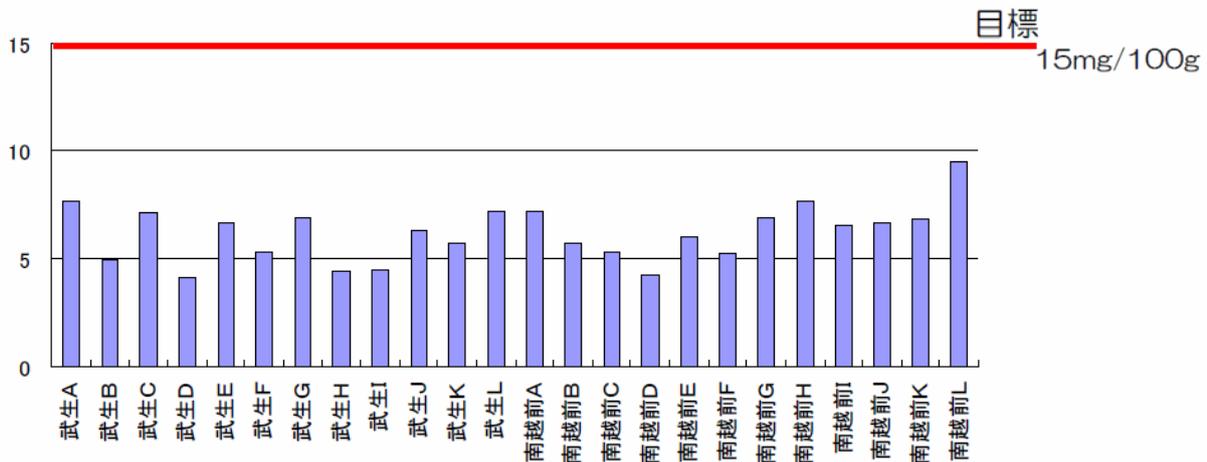
稲は好けい酸植物といわれ、けい酸は、
根の酸化力を増進し、病害虫や土壌還元に伴う各種阻害要因に対して抵抗性を高める効果があります。

したがって、毎年継続してけい酸資材を
施用することが望ましく、特に砂質土水田
や秋落ち水田等でその効果が高くなります。



管内の現状

管内の土壌診断を行ってみると、稲が生育するのに必要なけい酸の土壌含有量が、目標値に対し、ほとんどの地点でこれを下回っており、この傾向は、ほぼ全域に共通しています。下記のグラフに示した数値は、管内の土壌分析の結果を示した数値で、けい酸値の目標とされる15mg/100g(乾土)に対し大幅に不足しており、その不足を補い土づくりを図る目的でJA越前たけふはケイカル500kg/10a散布を推し進めています。



農地・水・環境保全向上対策 土壌分析結果より

けい酸の効果

- ① 土壌中のけい酸分、PHを高め、土壌中の養分を吸収しやすい状態にする。
- ② 茎葉を硬くし、倒伏や病害虫への抵抗力を高める。
- ③ 根の活力の発達や葉や茎を硬くし、稲体を丈夫にする。
- ④ 光合成を促進させ米粒中のタンパク質が低下することで、収量・食味が向上する。

稲刈り後の秋起こしの必要性

□ 稲わらのすき込みと深耕を □

稲わらのすき込みの効用

土を柔らかくすることで、土が養分を抱える力が向上し、地力の維持増進、土壤の改善・品質向上に役立ちます。

稲わらの分解を促進するために、収穫が終わったら速やかに（気温が高いうちに）耕起を行いましょう。

稲わらには窒素分やけい酸分が含まれますが、焼却すると稲体に利用されにくくなるので、焼かずに全量すき込みましょう。

まずは、土壤改良資材の散布と稲わらのすき込み等による土づくりを確実に行うことが高食味米生産のための第一歩となります。

深耕による根域の拡大

深耕で作土を増加させることにより、根張りや根の活力を向上させ倒伏や枯れ上りを防ぎましょう。

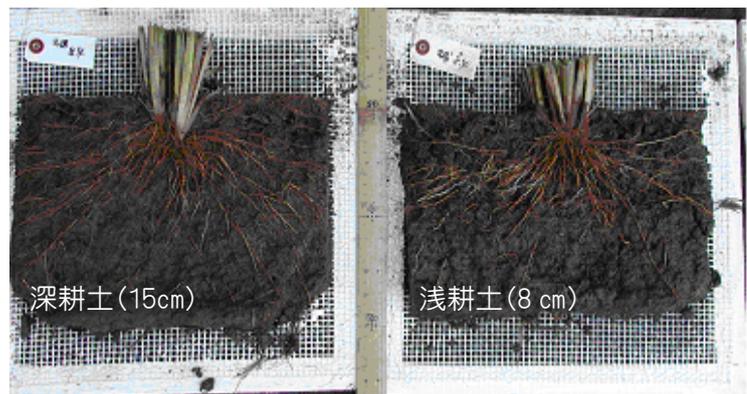
トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くし、現状よりプラス3cmの作土深15cmを確保しましょう。

近年は、耕深が浅くなったり、有機物や土づくり資材の施用が減少しています。

これらの要因が重なって、水稻の根群形成が浅くなり、貧弱となり、大きな気象変動にも耐えられず、稲体の活力を維持できなくなっていると考えられます。

おいしい、登熟の良い米づくりを目指すためには、収穫直前まで稲体の活力を維持する必要があり、深耕は根を十分に張らせ、健全に保つことにつながります。

□ 耕深の違いによる根域の違い □



◆ 特別栽培コシヒカリ生産予定農家の皆様へ ◆

来年、特別栽培米（減農薬・減化学肥料栽培など）のコシヒカリやあきさかりの作付を計画されている場合、平成24年産水稻収穫後から使用した肥料・農薬をカウントします。前作物収穫後から栽培期間中としてみなされます。

土づくり資材の選択については、化学合成窒素を含まない、ケイカルやスーパーケイサン、ようりんを施用するようにしてください。

平成25年産米の栽培は既に始まっています